様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人　滋慶学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	ITメディア学科	夜・通信	２７０時間	２４０時間	
	宇宙・ロボット学科	夜・通信	３００時間	２４０時間	
	AIスマートアグリ学科	夜・通信	２７０時間	２４０時間	
医療専門課程	救急救命士学科	夜・通信	２５５時間	２４０時間	
	義肢装具士学科	夜・通信	３０５時間	２４０時間	
	鍼灸師学科	夜・通信	４０５時間	２４０時間	
	スポーツ鍼灸師学科	夜・通信	４０５時間	２４０時間	
	柔道整復師学科	夜・通信	２７０時間	２４０時間	
文化・教養専門課程	スポーツトレーナー学科	夜・通信	１８０時間	１６０時間	
	アスレティックトレーナー学科	夜・通信	１８０時間	１６０時間	
（備考）					

２．

３．

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校で公開しているホームページ上にて公開の他、シラバス上で実務経験のある教員について明記し、学生便覧を通じて学生に告知する。

URL：https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm20190809-1.pdf?v2

要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人　滋慶学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2021.6.1～2024.5.31	地元(江戸川区)の名士として学校と地域の連携を図る。
非常勤	株式会社役員	2021.6.1～2024.5.31	地元(北海道)の名士として学校と地域の連携を図る。
https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人　滋慶学園

○　厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準 その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 毎年、自己点検・自己評価委員会を開催し、教育成果について教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また、学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ、各分野の委員と年２回の教育課程編成委員会を設け、業界目線による開講科目、内容などの見直しを諮り、カリキュラムを立案している。 また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り、学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスから毎時間のコマシラバスまでを表示し学生へ公表している。
授業計画書の公表方法　　HP上で公開　https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修 成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 学修成果の評価については、各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価を行っている。試験実施の１週間前までに、その日時・方法を公示し、原則として実質５０分間の試験（論文・レポート・実技・実習を含む）を行い、指導目標に対する学生の学修状況を勘案し、同じ基準に基づいて単位認定会議で単位評価評定を行う。 単位の評価評定は、学生の学修意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応することを目的としてGrade Point Average（以下GPAという）による評価を実施している。また、成績については各個人へのフィードバックと保護者に成績通知表の送付を行っている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価における評価点は、試験、平素の学習状況、出席状況の３要素により、評価する。成績は、１００点法とし、６０点以上を合格のＤとする。

GPAを算出する計算式は以下の、客観的な指標の算出方法以下のとおりである。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。）

実点数範囲	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下または不合格
成績評価	A	B	C	D	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

【GPAを算出する計算式】□

GPA=□

（該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP）の合計・・・・・・①

当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計・・・・・・②

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験（追試験・再試験含む）による単位を修得した者を対象として、学校長、教務部長及び学科教員による卒業判定会議において学校長が認定を行う。

卒業が認定されない学生は留年、もしくは卒業延期となる。

卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知する。留年及び卒業延期者については、今後の本人の希望を優先した進路についてカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。同時に、卒業に必要な単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度卒業判定会議を実施にて卒業の認定を行う。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	#REF!

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
財産目録	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
事業報告書	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
監事による監査報告（書）	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/

２．教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	ITメディア学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2700単位時間／108単位 単位時間／単位	720 単位時間/単位	14280 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			15000単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160 人	164 人		4 人		4 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

D-School北海道、NoMaps、北海道警察、レバンガSAPPOROによる特別講義を通しての連携、ネットトラブル防止教室などのイベント開催、ローカル・クリエイターズ・エキシビション 5などのイベント参加。

（備考）（任意記載事項）
今年度は、１、２年生のみが在籍。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93　人	7　人	7.5　％

（中途退学の主な理由）

メンタル面の不調、目標喪失。

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	宇宙・ロボット学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2700単位時間／96 単位 単位時間／単位	180 単位時間/単位	2520 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2700単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70 人	13 人		2 人		2 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

植松電機との連携により、教育用教材の試作モデル製作と製品テストを行い、学生の提案による、ロケット教室用ロケットが製品化された。札幌青少年科学館との連携イベントにて、モデルロケットを展示した。

（備考）（任意記載事項）

今年度は、１、２年生のみが在籍。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4　人	0　人	0.0　%

（中途退学の主な理由）

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	専門課程	AIスマートアグリ学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2595単位時間／96 単位 単位時間／単位	285 単位時間/単位	2040 単位時間/単位	870 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2325単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70 人	16 人		3 人		3 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

スマート農業共同体、ヰセキ北海道による連携授業実施、近郊の農場での農作物の空撮と画像解析結果の提供、岩見沢市スマート・アグリシティコンソーシアムによる無人走行トラクター遠隔監視制御実証の見学など。

（備考）（任意記載事項）

今年度は、１、２年生のみが在籍。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12　人	2　人	16.7　%

（中途退学の主な理由）

目的意識低下による進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	救急救命士学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2638時間／117 単位 単位時間／単位	1245 単位時間/単位	240 単位時間/単位	1153 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2638単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
300 人	308 人		6 人		6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
74 人 (100%)	0 人 (%)	42 人 (56.8 %)	32 人 (43.2 %)

（主な就職、業界等）

消防、病院

（就職指導内容）

消防学校などの見学、マラソン大会AED隊としての参加を通して意識付けを行い、公務員試験対策や体力テスト対策をカリキュラムに組む他、面接指導などもキャリアセンターと連携して一人ひとりに対応している。

（主な学修成果（資格・検定等））

救急救命士国家試験　８８名受験７４名合格　（合格率84.1%）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
278　人	5　人	1.8　%

（中途退学の主な理由）

目的意識低下による成績不良、進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	義肢装具士学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2970時間／109単位 単位時間／単位	855 単位時間/単位	450 単位時間/単位	1665 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2970単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	34 人		4 人		4 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (%)	7 人 (100.0 %)	0 人 (%)

（主な就職、業界等）

義肢装具関連企業、病院など

（就職指導内容）

臨床実習前後、また、障がい者スポーツ大会等への関わりを通して、現場を学び、他の養成校との合同企業説明会を開催する他、面接指導などもキャリアセンターと連携して行い一人ひとりに対応している。

（主な学修成果（資格・検定等））

義肢装具士国家試験７名受験、５名合格　（合格率　71.4%）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34　人	4　人	11.8　%

（中途退学の主な理由）

目的意識低下、心身の不調による成績不良、進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	柔道整復師学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2775時間／123単位	1230 単位時間/単位	780 単位時間/単位	765 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2775単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
150 人	69 人		5 人		5 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	4 人 (11.8 %)	28 人 (82.4 %)	2 人 (5.9 %)

（主な就職、業界等）

施術所勤務（接骨院、整骨院）

（就職指導内容）

学内企業説明会開催の他、個別面談により、個々の希望に合わせ、キャリアセンターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））

柔道整復師国家試験30名受験、23名合格　（合格率76.7%）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85　人	4　人	4.7　%

（中途退学の主な理由）

目的意識低下、家庭の樹上による進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	鍼灸師学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2745時間／125単位 単位時間／単位	1320 単位時間/単位	480 単位時間/単位	945 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2745単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60 人	39 人		6 人		6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	1 人 (5.0 %)	15 人 (75.0 %)	4 人 (20.0 %)

（主な就職、業界等）

はり・きゅう治療院、鍼灸接骨院

（就職指導内容）

学内企業説明会開催の他、個別面談により、個々の希望に合わせ、キャリアセンターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））

はり師国家試験19名受験19名合格(合格率100%)
きゅう師国家試験19名受験19名合格(合格率100%)

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63　人	4　人	6.3　%

（中途退学の主な理由）

メンタル面の不調、目的意識低下による進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	スポーツ鍼灸師学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2745時間／125単位 単位時間／単位	1320 単位時間/単位	480 単位時間/単位	945 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2745単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30 人	22 人		6 人		6 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、鍼灸師学科の教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

（備考）（任意記載事項）

今年度は１年生のみが在籍

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	#DIV/0!　%

（中途退学の主な理由）

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	スポーツトレーナー学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1965時間／77単位 単位時間／単位	420 単位時間/単位	2205 単位時間/単位	180 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2805単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	13 人		2 人		2 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
27 人 (100%)	6 人 (22.2 %)	20 人 (74.1 %)	1 人 (3.7 %)

（主な就職、業界等）

整体サロン、接骨院など

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

ノルディーア北海道試合運営、Red Bull 400 大会運営、アクティブシニア2021健康体力測定のイベント運営。

（備考）（任意記載事項）

スポーツトレーナー学科としては、募集停止しており、今年度は２年生のみ在籍。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47　人	7　人	14.9　%

（中途退学の主な理由）

メンタル面の不調、目的意識低下による進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

① 学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	専門課程	アスレティックトレーナー学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1965時間／77単位 単位時間／単位	420 単位時間/単位	2205 単位時間/単位	180 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2805単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人	12 人		2 人		2 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、スポーツトレーナー学科の教育課程編成委員会などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。

成績評価の基準・方法

（概要）

各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下GPAという）による評価を実施している。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。

学修支援等

（概要）

授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（主な就職、業界等）

（就職指導内容）

（主な学修成果（資格・検定等））

（備考）（任意記載事項）

今年度は１年生のみが在籍

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	#DIV/0!　%

（中途退学の主な理由）

（中退防止・中退者支援のための取組）

キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。

② 学校単位の情報

a ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料	実習費	施設設備維持費	総合演習費	
ITメディア学科	100,000円	600,000円	200,000円	70,000円	210,000円	
宇宙・ロボット学科	100,000円	600,000円	200,000円	70,000円	200,000円	
AIスマートアグリ学科	100,000円	600,000円	200,000円	70,000円	210,000円	
救急救命士学科	200,000円	700,000円	200,000円	70,000円	190,000円	
義肢装具士学科	200,000円	700,000円	400,000円	200,000円	190,000円	
柔道整復師学科	200,000円	700,000円	300,000円	120,000円	190,000円	
スポーツ鍼灸師学科	200,000円	700,000円	300,000円	120,000円	190,000円	
アスレティックトレーナー学科	100,000円	600,000円	100,000円	70,000円	250,000円	

b ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校法人滋慶学園北海道ハイテクノロジー専門学校が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め委員会を組織して、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。
学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社 フロンティアサイエンス	2022.4月～2023.5月	卒業生代表
学生の保護者	2022.4月～2023.5月	保護者代表
帯広大谷高等学校	2019.9月～2023.5月	高等学校関係者
近隣関係者	2019.9月～2023.5月	高等学校関係者
株式会社 manabit	2022.4月～2023.5月	工業･文化教養分野業界関係者
株式会社 植松電機	2021.4月～2023.5月	工業･文化教養分野業界代表
株式会社 サングリン太陽園	2021.4月～2023.5月	工業･文化教養分野業界代表
公益社団法人 北海道柔道整復師会	2021.4月～2023.5月	医療分野業界関係者

学校関係者評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
第三者による学校評価（任意記載事項）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://www.hht.ac.jp/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	#REF!
設置者名	#REF!

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		115　人	107　人	222　人
内訳	第Ⅰ区分	69　人	69　人	
	第Ⅱ区分	22　人	26　人	
	第Ⅲ区分	24　人	12　人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				222　人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。
※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0　人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0　人	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	0　人	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0　人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	―　人	人	人
計	―　人	0 人	0 人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	―　人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退　学	0　人
３月以上の停学	0　人
年間計	0　人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0　人
訓　告	0　人
年間計	0　人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0 人	人	人

ＧＰＡ等が下位４分の１	22 人	人	人
出席率が８割以下その他 学修意欲が低い状況	0 人	人	人
計	22 人	0 人	0 人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。